



じょうの 城野遺跡公園を実現する会

会報 号外
2019年3月15日

北九州市小倉南区域城野/JR日豊本線・JR日田彦山線「城野駅」南口から徒歩3分

九州最大級の方形周溝墓一部損壊！ 市計画の「遺跡広場」1.5メートルも掘削！

—北九州市の杜撰な保護管理と開発業者による破壊は許されない—

九州最大級の方形周溝墓が発見された西エリアの造成工事が2/14に開始され、当会の会員が「遺跡広場」(市有地)の掘削面に方形周溝墓を埋め戻した砂が露出していることを発見。2/24に会員とともに確認した市民が市に通報、市の担当者が現地調査の結果、開発業者による造成工事に伴う掘削を確認しました。

3/7の毎日新聞朝刊に「周溝墓埋蔵部分を掘削」の記事が掲載され、同日午後市文化企画課は「埋蔵文化財(城野遺跡)の一部損壊について」のコメントを発表しました。翌日、大手新聞社4社全紙が「城野遺跡方形周溝墓一部損壊」の記事を載せました。

2/18に開催された城野遺跡公園を実現する会と文化企画課の懇談会の席上、西エリアの工事が2/13より始まっている旨の懸念を伝えましたが、文化企画課による現地調査は行われませんでした。掘削の現場は報道によると、「遺跡広場」(市有地)境界から1.5メートル、2カ所で幅40～50センチに渡り周溝の一部が崩されました。弥生時代のままの状況が残されてこそ遺跡の価値があるのに、復旧と称して現代の土砂が混じっては遺跡の価値が激減です。

「実現する会」と「日本考古学協会」が北橋市長に抗議文を提出！

会は市民の通報直後から文化企画課に現状を確認したり、今後の対応について問い合わせたりしましたが、遺跡損壊の現実を見過ごす事が出来ず、3/8に市役所の市長秘書室を訪ね、北橋市長宛の抗議文と質問状(3/20回答期限)を手渡しました。また、日本考古学協会も3/11に市長と担当局あてに抗議文(3/29回答期限)を送付しました。

市は開発業者に報告を求め原因を追及しようとしています。市の貴重な文化財である市有地の杜撰な保護管理にも無重大な責任があります。北九州市と開発業者に猛省を促すとともに、市の文化財行政のあり方を真剣に考え直す好機ともすべきです。

※なお、市は開発業者の会社名をなぜか明言しませんが、会の役員らが現地で開発工事の責任者が大和ハウス工業(株)の社員であることを確認しています。



↑1.5メートルも掘削された「遺跡広場」(市有地)の断面。文化企画課は方形周溝墓の損壊部分は2カ所と発表した。第一発見者の会員によると疑問があり、現在、質問しています。

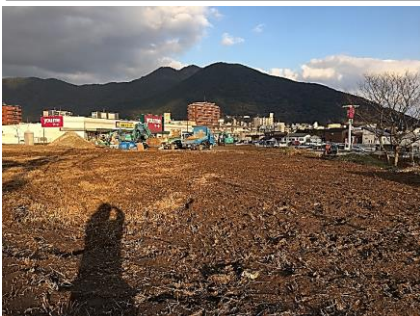
<市長に対する質問状の主な内容>

- そもそも遺跡広場の広さが方形周溝墓の周溝から1メートルしかないのは危険すぎでは？もっと土地を取得すべきだったのでは？西エリア全域を取得すれば何ら心配なく、遺跡公園として整備・活用できたのに…。
- 昨年9月に市有地となった段階で、あるいは昨年11月に隣接地に「開発予告標識(工事予定期間 2/20～5/21)」が設置された段階で、貴重な文化財を厳重に保護管理するためにロープを張るなど境界線を明示すべきだったのでは？
- 「開発予告標識」のまま開発工事に着工していいのか。
- 「開発予告標識」が2月25日以降に「開発許可標識(工事期間 2/14～5/14)」に建て替えられたのはなぜか。市の建築都市局開発指導課はこの日から工事開始することを知っていたのか？文化企画課は知らなかったのか？
- 掘削場所の白いラインはだれが引いたのか？市は立ち会わなかったか？市有地との境界線を開発業者が勝手に引いて、勝手に工事することがあり得るのか？
- 市は、開発業者に隣接する市有地には重要な文化財があること、工事着手前に市と協議することをどこまで厳格に説明したのか？文書で申し入れたのか？等々

各社の新聞記事は裏面をご覧ください。「実現する会」と「日本考古学協会」の抗議文も同封しています。



↑掘削する場所を示す石灰の白い線。市が立ち会わずに、隣接地の開発業者が境界線を勝手に引いて掘削することがあり得るのでしょうか。



↑広大な城野遺跡は、東エリア(写真向こう側)は2018年1月に「ゆめマート城野店」建築の造成工事で全滅、西エリア(写真手前)は2019年2月に商業施設建築のための造成工事が始まりほぼ全域が壊されました。



↑上記写真の撮影場所近くから撮ったも2017年12月までの城野遺跡全域。足立山をのぞむ丘陵地にあります。



↑2019年1月までの西エリア。丘陵地だったため掘り下げて作られた道路よりも高くなっていました。現在、右写真のように道路と同じ高さに削られています。



↑2月24日、「開発予告標識」のまま造成工事が施工されていた。この数日後、「開発許可標識」に建て替わっていたのはなぜでしょうか。

北九州

報道部 〒802-8651
小倉北区紺屋町13-1
毎日新聞西部本社
電話093-511-1110 FAX522-1721
seibuhoudo
@mainichi.co.jp

読者相談室 0120-547012(平日10-18時)
広告 531-6481 オリコミ 475-0300



削り取られた方形周溝墓埋蔵部分—市民提供

城野遺跡 周溝墓埋蔵部分を掘削

隣接地造成工事 破損の有無市が調査

小倉南区の城野遺跡で、九州最大級の弥生時代の方形周溝墓があるエリアの一部が、隣接地の造成工事に伴い掘削されたことがわかった。遺跡を所有する北九州市は周溝墓が破損されていないかを調査している。旧城野医療刑務所跡地の発掘調査で見つかった城野遺跡は市が所有する北九州市は周溝墓(約6800平方メートル)のうち方形周溝墓(東西17メートル、南北25メートル)部分を所有者から無償譲渡され、周辺部も含め約970平方メートルを遺跡公園として整備する。エリアの残り部分は所有者が市内の建築会社に売却。2月14日から商業施設建設のための造成工事が始まった。市文化企画課によると、掘削を確認したのは2月24日。周溝墓の南北約25メートルに沿って、敷地の境界を1.5メートル越えて掘削され断面があらわになっていた。市は工事施工者側に一時、工事を中止させた上で、経緯の報告を求めた。周溝墓は発掘調査後は盛り土で埋め戻されており、掘削が周溝部分に及んだか周辺部に留まったかは調査中という。

施工者側には昨年11月、文化財保護法に基づき、工事開始に先立って同意と協議をするよう伝えていたが、連絡はなかったという。横山久・同課長は「貴



出土した当時の方形周溝墓。左側の溝が南北部分。中央の墓坑には幼児の骨を収めた2基の箱式石棺が埋蔵されていた—北九州市提供

更な遺跡だけに困惑し、求めたい」としている。【伊藤和久】

2019年3月7日付 毎日新聞

2019年3月8日付 毎日新聞

2019年3月8日付 西日本新聞

城野遺跡の周溝墓 隣接地造成で損壊 小倉南区 北九州市は7日、小倉南区の城野遺跡で、市が所有する九州最大級の方形周溝墓の一部が隣接地の造成工事に伴い、開発業者によって損壊されたと発表した。市民の通報を受けた市が先月確認した。業者は市有地の境界を1.5メートル越えて掘削。周溝の縁部分が2カ所掘削されていた。市は開発業者に経緯の報告を求めるとともに、文化財保護法に基づき発掘届も提出されていたと指摘した。 城野遺跡の方形周溝墓は弥生時代終末期のもので考えられており、2009年に見つかった。市が土地を所有する民間企業から無償譲渡を受け、史跡広場として整備する方針を示している。市の担当者は「市民の貴重な財産であるだけに残念」と話した。

城野遺跡 周溝墓 一部が損壊

造成工事で掘削 市調査で判明

小倉南区の城野遺跡が損壊していたと発表。九州最大級の弥生時代の方形周溝墓があるエリアの一部が、隣接地の造成工事に伴い掘削された。市は7日、周溝墓の一部が損壊されたと発表した。市は調査で判明した。周溝墓は約6800平方メートルあり、方形周溝墓(東西17メートル、南北25メートル)部分を所有者から無償譲渡され、周辺部も含め約970平方メートルを遺跡公園として整備する。市は開発業者に経緯の報告を求めるとともに、文化財保護法に基づき発掘届も提出されていたと指摘した。 城野遺跡の方形周溝墓は弥生時代終末期のもので考えられており、2009年に見つかった。市が土地を所有する民間企業から無償譲渡を受け、史跡広場として整備する方針を示している。市の担当者は「市民の貴重な財産であるだけに残念」と話した。

城野遺跡 一部が損壊

小倉南区 開発業者、市有地掘削

北九州市は7日、九州最大級の弥生時代の方形周溝墓の一部が損壊された。市は調査で判明した。周溝墓は約6800平方メートルあり、方形周溝墓(東西17メートル、南北25メートル)部分を所有者から無償譲渡され、周辺部も含め約970平方メートルを遺跡公園として整備する。市は開発業者に経緯の報告を求めるとともに、文化財保護法に基づき発掘届も提出されていたと指摘した。 城野遺跡の方形周溝墓は弥生時代終末期のもので考えられており、2009年に見つかった。市が土地を所有する民間企業から無償譲渡を受け、史跡広場として整備する方針を示している。市の担当者は「市民の貴重な財産であるだけに残念」と話した。

城野遺跡 一部壊される

小倉南 隣接地の造成工事で

北九州市は7日、城野遺跡(北九州市小倉南区)にある弥生時代の墓の一部が隣接地の造成工事で壊された。市は調査で判明した。周溝墓は約6800平方メートルあり、方形周溝墓(東西17メートル、南北25メートル)部分を所有者から無償譲渡され、周辺部も含め約970平方メートルを遺跡公園として整備する。市は開発業者に経緯の報告を求めるとともに、文化財保護法に基づき発掘届も提出されていたと指摘した。 城野遺跡の方形周溝墓は弥生時代終末期のもので考えられており、2009年に見つかった。市が土地を所有する民間企業から無償譲渡を受け、史跡広場として整備する方針を示している。市の担当者は「市民の貴重な財産であるだけに残念」と話した。

2019年3月8日付 読売新聞

2019年3月8日付 朝日新聞

隣接地との境界線から遺跡側に約1.5メートル掘削され、溝の壁2カ所が削られていた。隣接地では土地の造成工事が行われており、市民が2月24日に通報して発覚したという。市は造成業者から事情を聞いていた。掘削された方形周溝墓は2009年、市教委などによる発掘調査で出土。九州最大級とされ、2基の石棺や人骨なども出土していた。

発行日 2019年3月15日 号外
 発行者 城野遺跡公園を実現する会
 編集担当 高橋徹雄
 連絡先 永田由起(事務局長)
 TEL 090-3079-6503 FAX 093-951-3524
 振替口座 ゆうちょ銀行 01780-0-147174
 「城野遺跡公園を実現する会」